

KAKOKITA TIMES

学校通信 加古北タイムズ

兵庫県立加古川北高等学校
教育マネジメント部



西オーストラリア州短期語学研修 参加者インタビュー



7月28日～8月5日の9日間、パースの西オーストラリア大学の短期語学研修があり本校からは5名が参加しました(全体では6校25名)。全校集会でその報告会がありました。今回は8月に行ったインタビューの中から報告会では聞けなかったようなホストファミリーとのエピソードを掲載します。

参加者は3年次の齊木七音君、2年次の嘉地由翔君、溝口凌太郎君、杉野智基君、佐伯香里奈さんです。

聞き手: 藤崎、以下 ふ) ではまず、お名前とステイさせてもらった方のお名前を教えてください

杉野です、クローフトさんとデップさんと20代の息子さんのファミリーにお世話になりました。

佐伯です、ベンさんとスカイさんです。8歳と10歳の双子、12歳の4人姉妹とイヌとネコの家族です。

嘉地です、ミシェルさんとキースさんとその娘さんと6歳のお孫さんです。

齊木です、僕は杉野君と同じファミリーにお世話になりました。

溝口です、シェーンさんとエンジェラさんと同じ年の息子のハーレー君です。

ふ) さて、大学のキャンパスでそれぞれのファミリーに迎えられましたが、最初のドキドキはどんな感じでしたか?

嘉地)すぐに帰りたいなあ〜って思いました。しゃべりかけられるけど緊張もあってしゃべられへんし、聞き取れないから・・・

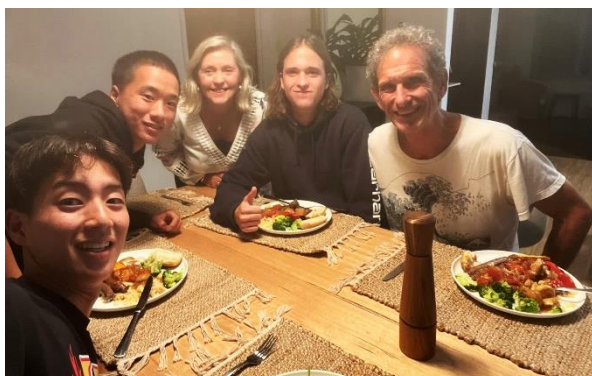
齊木)車の中でむこうは気を遣って話しかけてくれたんですけど、僕は聞き取れないんで気まずい空気が流れて・・・話しかけられたら、Yes、Yes、Yes、、、しか言えませんでした。

佐伯)けっこうゆっくり話してくれたので、なんとか聞き取れました。私の方は単語を並べる程度でしたが、みんなの反応で通じているように思えました。

溝口)シェーンさんは日本語学校で英語の教師をされているので日本語をちょっとしゃべってもらって、そのおかげで会話がスムーズになりました。僕はなんとか単語を並べてがんばりました。楽しかったです。

ふ) 最初はそんな感覚でしたが、二日目以降はどう?

嘉地)だんだん良くなってきました。ちょっとずつ聞き取れるようになって、リラックスしてしゃべれるようになってきました。晩ごはんを食べて親近感がわいてうちとけてきました♪



ふ) 言葉は気を遣ってくれて簡単にしてくれた? それともバンバン話してきた?

齊木)もーバンバンです! わからなそうにしていると簡単な英語にはしてくれるけど、、、Yes、Yesの連発からは脱しました。

嘉地)一日目の晩ごはんの時は家族団らんだっただけで家族同士の会話は何を言ってるのかさっぱりわかりませんでした。僕に対しては何度も説明してくれました。

ふ) そこで楽しい顔はできましたか? 嘉地)はい! (全員笑)

溝口)僕も夕ご飯の時によくしゃべってくれて、とても日本が好きで来日したこともあるファミリーで、盛り上がりました。兵庫には来られたことがないので僕の住んでいるところや姫路城の話をしました。



佐伯)夕食がラザニアだったんですけど、一緒につくることになってそこで楽しく打ちとけることができました。毎回の夕食のときにひとりずつその日の感謝を伝えることがあるのですが、私の話したことに丁寧にくわしく質問してもらったのがよかったです。日本のことや家族のこと、学校生活のことなどもよく聞いてくれました。

杉野)お昼御飯がサンドイッチだけとかで思った以上に日本より少ないことに驚きました(笑) 嘉地)多くてリンゴも一個まるまるとか 佐伯)うちは多かったです～

佐伯)子どもたちがいっぱいいる家族でしたが、寝る前に親が部屋に行って愛を伝えたり、ハグをしたりとかで日本よりも家族に対する愛が感じられる場面が多かったです。

齊木)ご飯の時みんなで集まって一斉にいただきますって食べることはなくて、各自ではじめていました。

溝口)電車とかは全員カードをもっていてそれを使っていました。買い物もあんまり現金を使わない感じ。今回僕らも交通カードをもらっていて電車もバスも使いました。

ふ) ファミリーさんとお出かけなどしませんでしたか？

杉野)日曜日に朝からカフェに行きました。そのあと市場にいて食材などの買い物をしました。いつもそうしているようです。びっくりしたのは、食べだしたんですよ！ミカンみたいなものをいきなりむいて！お金も払ってないのにですよ！で、食べたあと何個かとして支払ってました。試食でなくて売り物でもそうするみたいです。

佐伯)イヌがいたので海に散歩に行ったり子どもたちと一緒にショッピングに行きました。カフェや中華料理やイタリアンに連れて行ってもらいました。中華は注文するのではなくて、店員さんがいろいろ料理をもって回ってるところから選ぶ方法でした。

嘉地)研修先の学校までは自分たちで行ったんですけど、ショッピングのあと帰ってきたら6歳の孫が登場して、人見知りとか全くなくて通じてないとかおかまいなしで絡んできてとても好かれてしまいました。

溝口)連れて行ってもらった海はごみ一つなくキレイで大型犬が10頭以上放し飼いになっていました。

ふ) この滞在を通して一番心に残ったことはなんですか？

杉野)毎日の夜ご飯です！食べてる時の会話が楽しかったです。だんだん聞き取れるようになってきました。例えばホストマザーはサッカー大好きで、女子ワールドカップを一緒に観戦して盛り上がりました。

佐伯)最後の日に感謝の言葉を手紙にしてそれをファミリーに向けて読んだんですけど、自分で号泣してしまい・・・そしたらみんなが私を抱きしめてくれたりして、短い間だったのに家族のようにつながったというか愛をもらえたと感じたことです。日本に来てくれたらまた会いたいです。

嘉地)ご飯の後のテレビを見ながらの団欒の雰囲気がよかったです。ラグビーとかクリケットの中継をよくみていました。ちっちゃい子ともYouTubeをみたりして打ちとけました。

溝口)写真が好きで海に行ったときに日本のアニメのポーズをとったりして盛り上がりました。LINEをつないで写真を交換しました。日本に帰ってきてもやり取りしています。

齊木)ホストファミリーとしゃべっていて会話がだんだんわかってくる感じがうれしくて、最初はYes、Yesばかりだったのが、自分の聞きたいことが質問できるようになったことです。自分の変化に驚いています。言葉がヘタでも意外とジェスチャーで伝わるし、水族館のことをOcean Museum(ホントはaquarium)とか言っても通じたし、、伝えようとしたら伝わるんやとなあと。もっと滞在できればもっとしゃべれたし仲良くなれたと思います。

